

2015年度
後期科目履修終了時評価
に対するコメント
【看護学研究科】

人間環境大学 FD委員会
看護学部・看護学研究科分科会

博士前期課程

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
1	MA0301	疫学統計学M II	市川 誠一	1.目的: 疫学研究方法、疫学調査のプロセスと統計分析、テキストマイニング、調査データのGIS表示などの専門的知識を自己研究に照らして修得する 2.履修終了時評価表の評価項目の設定数 4評価項目 3.受講者よりどのような評価やコメントがあったか 実際の研究を基に組まれた講義内容、自身の研究に沿った授業内容、実際の研究計画に反映できる内容、新しい統計ソフトの紹介があったなどのコメントがあった。 疫学、統計学を看護研究に活かせるように、事例研究を含めさらに工夫したい。
2	MA0501	看護教育特論M共通	小笠原 知枝	特別研究の目的は自立した研究者として看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。そのため本科目では、新規性と独創性のある新たな科学的知見を見出すことを目指した研究計画書を作成することを目的とし、看護教育の質保証をめざし、看護教育活動の改善・改革のために、教育プログラムの開発、教育介入研究、教育システムの開発などの研究に取り組む研究計画書の作成を目標とした。授業終了時の評価項目には7項目を設定した。受講者から、1)研究テーマや研究デザインの設定にかなりの時間を要した、2)授業はゼミ形式で進めたことにより、さまざまな視点からのアドバイスが得られ、研究計画書の作成に参考になった、などのコメントがあった。
3	MA0701	看護管理特論M	藤原 奈佳子	職場(病院)組織で良質な看護サービスを提供するために、職場内の看護組織、看護チームの運営や組織力の強化に必要な知識・技術を学ぶことを目的としている。履修者は、それぞれ機能の異なる職場における自身の立場から、組織分析、人的資源活用、院内教育、組織変革、労務管理などについて話題提供をしてグループ討議をすることにより、互いの職場での取り組みを理解し、効果的な実践活動における理論的背景をみいだすことができた。今年度の履修者の構成では、グループダイナミックスの成果が得られた。
4	MA0801	看護政策特論M	藤原 奈佳子	看護制度と関連する政策課題について、看護行政における政策活動や政策的な働きかけの方法、看護サービスに関する将来設計、看護職の政策的役割を探究することをわらいとした。ホームページ上で公開されている審議会や検討会の議事録を時系列で閲覧し、内容を丁寧に分析することで、政策決定の過程や政策提言活動の実際を再現した。この方法は、政策決定の過程と政策提言活動を具体的に理解することに効果的であった。
5	MA0901	国際保健看護学特論M共通	西川 まり子	この授業の目的:将来、国際社会においてヘルスの分野で活躍する基礎を学ぶために、国際的なヘルスに関係する指標から、世界のヘルス状況を把握する。グローバル化の中での人々の移動や原住民のヘルスと多文化看護を理解する。世界の看護の動向、グローバルヘルスとその問題点、世界の保健部門をサポートする国連を含む国際組織やNGOの活動を理解する。保健医療の重要な担い手として、国際社会におけるアドボカシーについて、自分の意見を持つことができるようにする。評価項目:5. 受講者のコメントや評価:講義やビデオを介して国際的にヘルスや看護を考えることができ、多くの新しい知見が得られ有意義であった。
6	MB0201	看護教育学演習M	小笠原 知枝	本科目は、看護教育学特論 I を踏まえ、授業や演習の展開方法、目的に応じた教育評価や実習評価方法などを学修し、効果的な教育方法や教材の開発方法、及び評価方法などを先行研究やエビデンスに基づいて探究することを目的とした。そして、看護学教師としての教育力を発展させ、自己の研究課題や研究計画に反映させることを目標とした。授業終了時の評価項目には5項目を設定した。受講者から、1)学生の指導体験の事例を介して討議したことが今後の指導に活用できた、2)学生の意見や考えを確認しながら授業が展開され、理解がより深まった、などのコメントがあった。
7	MB9101	看護教育管理学特別研究M I	篠崎 恵美子	本科目では看護教育の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のために先進的な課題で実践的研究に取り組むことを目的としている。この科目では研究計画書の作成し、研究倫理委員会への提出までを目指している。受講者2名は研究倫理委員会への提出をすることができ、概ね目標を達成した。受講生は主体的に学ぶことができ、高い評価を得た。
8	MD2201	エンド・オブ・ライフケア看護学演習M	小笠原 知枝	本科目の目的は、質の高いエンド・オブ・ライフ ケアを提供するために、一般病棟・緩和ケア病棟・ホスピス・在宅・老人ホームなどにおけるケアの展開方法、病態や年齢条件によるケア展開方法、患者のアセスメントとアウトカム評価方法、ケアの質管理、社会資源活用とチームケア、ケアシステムの評価方法などについて、演習形式で学修し、その成果を自己の研究に応用することである。授業終了時の評価項目には5項目を設定した。受講者から、1)エンド・オブ・ライフ ケアに関連した在宅や施設の現状について、エビデンスをもとに授業が進み理解しやすかった、2)頻回な討議を通して疑問点を言語化でき、実践へのヒントが得られた、3)学んだことを振り返り実践できるように意識して行動したい、などのコメントがあった。

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
9	MD2301	エンド・オブ・ライフケア看護学演習MⅡ	小笠原 知枝	本科目は、エンド・オブ・ライフケアにおいて質の高いケアを提供するために、リーダー能力、管理者能力、現場指導者としての教育能力の強化をめざし、実践で知識・技能・コンサルテーション力を含めて計画的・効果的な実践の展開方法を習得する。そのために、さまざまなケア施設(緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設など)において、フィールドワークを体験することを目的とした。演習終了時の評価項目には6項目を設定した。受講者から、1)緩和ケア病棟での良質な看護提供について考え、学びは多かった。自然な生き方や死について考えていきたい、2)リーダー業務や教育機能においては日々実践するため理解しやすく、課題も現場と実習施設の比較により見い出せた、3)リーダー看護師ともう少し話せる機会があるとよかった、などコメントがあった。
10	MD9102	成人・高齢者看護学特別研究MⅠ	小笠原 知枝	本科目の目的は、質の高いエンド・オブ・ライフケアを提供するために、一般病棟・緩和ケア病棟・ホスピス・在宅・老人ホームなどにおけるケアの展開方法、病態や年齢条件によるケア展開方法、患者のアセスメントとアウトカム評価方法、ケアの質管理、社会資源活用とチームケア、ケアシステムの評価方法などについて、演習形式で学修し、その成果を自己の研究に応用することである。授業終了時の評価項目には5項目を設定した。受講者から、1)エンド・オブ・ライフケアに関連した在宅や施設の現状について、エビデンスをもとに授業が進み理解しやすかった、2)頻回な討議を通して疑問点を言語化でき、実践へのヒントが得られた、3)学んだことを振り返り実践できるように意識して行動したい、などのコメントがあった。
11	ME0201	在宅看護学演習M	島内 節	科目の目的はエビデンスに基づくケア内容と方法の検討から実践力を強化する。参加学生は1名で在宅演習授業の教授内容は、2点に集中して行った。1点目は利用者と家族、QOLを高めるケア、アウトカムをとらえる方法とその活用方法、2点目は文献を活用し、国内外の在宅における制度と研究の動向を知ること、かつ自己の研究と照らし合わせて洞察力を高める授業内容とした。その結果、学生は積極的な学習意欲を持ち学ぶことへの努力をしていた。さらに学生からは在宅看護の幅の広さや訪問看護サービスにおけるケアの重要性を学ぶことができたとの感想を得た。授業の改善点については、在宅療養生活を取り巻く環境とQOLを高める看護支援及びケアアウトカムについてさらなる具体的な学習支援と在宅ケアの質管理方法を具体的に考える授業内容を検討する。
12	ME0301	在宅看護学演習MⅡ	福田 由紀子	在宅看護学演習MⅡは、演習と臨地実習(7日間)を含む教授法である。演習では、実習に必要な在宅管理や実習指導者の役割、地域に関連した訪問看護の意義などを学習し、その上で実習計画を学生自身が立案し、実習に臨んだ。実習では、訪問看護リーダー、管理者の役割、実習生の指導方法の見学、地域の関わりでは保健センター主催の難病患者の家族会や地域ケア提供者研修会等にも参加し、多くの体験を通して訪問看護を学ぶ内容とした。その結果から、訪問看護リーダーの実践、看護管理者の役割の実際が理解できていた。次年度の課題として、実習指導者としての関わりが少なく、理解が不足していたため、次年度は、訪問看護ステーションに実習にしている学生の実習指導者や学生自身も指導案を作成し、実習に臨むこととする。
13	ME2201	地域看護学演習M	三徳 和子	目的は地域看護の領域の看護活動として地域看護診断、看護計画、実践、評価の一連の過程が理解できることである。評価項目設定数は5つで、受講者のコメントでは、「フィールドでの意見交換、資料などにより、地域看護学診断の一連の過程を理解することは出来た。地域看護計画策定において、優先順位の設定に迷った。演習ではGIS地図の有用性は理解できたが、実際に使えるまでに学習したい」との意見があった。次年度からは、受講生の求めている地域看護学領域の活動分野を具体的に設定し、GIS演習の時間をとり、実際に役立つように教育内容を改善したい。
14	ME2301	地域看護学演習MⅡ	三徳 和子	科目の目的は、個人・家族・集団を対象に、ケア方法、ケアシステム、地区組織の育成、健康危機管理、地域看護活動計画の策定と評価である。評価指標は5つで、記述では「地域健康管理における保健指導方法の構築とその援助指導方法を具現化できた。また職場管理体制の課題分析を職場の保健師と情報共有できる場面の設定をして、保健指導のラダー開発まで展開できた。さらに継続的援助システムについて職場の管理者とも理解が深められ、保健師職能の役割として活用できた」であった。今後は、職場のOJTの一貫となるよう授業内容及び演習時間配分について工夫していく。
15	ME2401	地域看護学管理特論M	三徳 和子	目的は、個人、家族、集団を対象とする健康管理活動に際し、必要な人体の生理・病理・薬剤の作用機序に関する知識・技術を駆使し、保健指導能力を養い、個人、集団の健康管理活動を行うことである。評価項目設定数は5項目である。評価指標は3つで、学生のコメントは「難病患者の支援、産業保健分野での先駆的取り組み事例の検討」などにより課題について検討を深めることが出来た」「健康に影響する要因について考察することが出来た」「多様性と優先度、効率的・効果的な対応のあり方について考察できた」などであった。今後は1つのテーマを取り上げ、議論を深めることができるように工夫していく。

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
16	ME4201	国際保健看護学演習M	西川 まり子	この授業の目的:1)国際保健看護の演習を通し、ヘルスや看護分野の論文をクリティークやディスカッションしながら国際的な問題を捉え、その改善のための提言ができる基礎的能力を持てる。2)世界の論文を交えた広い視野から問題解決能力を持って、国際保健看護学の領域における具体的な課題に、積極的、効果的に取り組む方策と方法を説明できる。3)国際保健看護の学びを通し、ヘルスにおける国際的な問題を捉え、その改善のための提言ができる基礎的能力を持てる。4)広い視野から問題解決能力を持って、国際保健看護学の領域における具体的な課題に、積極的、効果的に取り組む方策と方法を説明できる。国際社会におけるアドボカシーについて、自分の意見を持つことができるようにする。評価項目:5. 受講者のコメントや評価:文献と講義から国際的にヘルスや看護を見て、多くの新しい知見が得られて、実用的でもあり大変有意義であった。この授業の目的:1)国際保健看護の演習を通し、ヘルスや看護分野の論文をクリティークやディスカッションしながら国際的な問題を捉え、その改善のための提言ができる基礎的能力を持てる。
17	ME4301	国際保健看護学演習M II	西川 まり子	2)世界の論文を交えた広い視野から問題解決能力を持って、国際保健看護学の領域における具体的な課題に、積極的、効果的に取り組む方策と方法を説明できる。3)国際保健看護の学びを通し、ヘルスにおける国際的な問題を捉え、その改善のための提言ができる基礎的能力を持てる。4)広い視野から問題解決能力を持って、国際保健看護学の領域における具体的な課題に、積極的、効果的に取り組む方策と方法を説明できる。国際社会におけるアドボカシーについて、自分の意見を持つことができるようにする。評価項目:5. 受講者のコメントや評価:文献と講義から国際的にヘルスや看護を見て、多くの新しい知見が得られて、実用的でもあり大変有意義であった。
18	ME6201	精神看護学演習M	郷良 淳子	精神看護の状況を取り巻く今日の課題とその背景の理解と精神看護を実践する看護師の役割と高度実践家として、必要なスキルの基礎的能力の育成を目的とした。評価項目は4つで学生の評価はおおむね高く、「精神看護の現代の課題についての十分な理解ができた」。精神看護学領域では、精神科看護狭義及び看護職のメンタルヘルス対応を含むリエゾン精神看護という広義の内容の理解とスキルが求められる。これらの知識とスキル習得を目指し、より系統的に内容を練っていきたい。
19	ME6301	精神看護学演習M II	郷良 淳子	演習と実習を組み合わせ、実習での学びを学内の演習での省察を通して、学びを深めることを目的とした。評価項目は学生の高度実践家、管理者としての能力向上のための4つを設定し、学生の学びの概ね高く、実習先の実践内容を自身の病院でも組み込む計画を立案することができた。科目の目標を個々人の学生のニーズに合わせて、実習をいかに展開するかがこの科目の学びの達成度に欠かせないため、学生のニーズを見極めて、実習の展開を組み立てていくことを今後も行う。
20	ME9102	広域看護学特別研究M I	福田 由紀子	研究のテーマ決定のため、まず研究論文のクリティークを行い、研究倫理について学習した。自分の研究テーマを絞りながら、研究方法について教授した。今年度は、研究計画書を発表し、倫理審査を受けることができた。テーマの決定までは、多くの論文をクリティーク、討論し、研究計画書を作成した。来年度の課題として、学生からはデータの分析方法(統計)が理解できない。難しいとの意見があったため、研究M Iの授業の中でも、実際のデータ分析が行えるような実践的な講義を計画する。
21	ME9103	広域看護学特別研究M I	西川 まり子	この授業の目的:国際保健看護の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。国際保健看護学の分野で広い視点が持てるように、専門的で科学的思考力と研究能力を有する看護の実践的リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職となるために必要な研究能力を身に着けるために、適切で実行可能な研究計画書を作成し、研究倫理委員会に提出できるようにすることである。評価:5つ。 受講者のコメントと評価:受講者は研究の初学者に等しく、多くのことに戸惑いながら、研究計画書を作成し倫理審査委員会に提出することができた。今後はさらに修正を加えて、良い研究にしていく努力が必要となる。
22	ME9104	広域看護学特別研究M I	郷良 淳子	文献レビューを行いながら、研究テーマを選定し、目的・方法、分析方法までの計画を立案することが目的であり、評価項目はこれらを含む5つを設定した。テーマは、精神看護実践において重要な知見が得られるだろうものを選定し、目的や方法も実現可能な内容が計画できた。学生の評価もおおむね高かった。文献レビューでは、さらに文献クリティークができればよかったが、これは2年次も続け能力の向上を図りたい。時間的には計画書立案と倫理委員会まで通すので、非常にスケジュール的には厳しかった。

博士後期課程

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
1	DB0201	看護教育学演習D	小笠原 知枝	本科目の目的は、看護教育学や看護の基盤となる領域の概念・理論・モデルを創造することに貢献する研究力を高めるために、概念分析、システマティックレビュー、推測統計などを含む質的・量的研究プロセスを修得することである。授業終了時の評価項目には5項目を設定した。受講者から、1) 提示資料の読み込み時間に時間を要し、クリティークするまでには到達できなかった、2) 文献のクリティークにより得られた知見が自己の研究計画に活用できた、3) 資料に基づきわかりやすい授業であった、などのコメントがあった。
2	DB2201	看護保健管理学演習D	藤原 奈佳子	研究計画作成に必要な知識についての学習から、国内文献や自己の経験を発展させて研究課題を探索できたが、国外文献のレビューは不十分で課題が残った。ヘルスケアシステムにおける看護管理のあり方を吟味することができた。
3	DB9101	看護教育管理学特別研究D I	小笠原 知枝	特別研究の目的は自立した研究者として看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。そのため本科目では、新規性と独創性のある新たな科学的知見を見出すことを目指した研究計画書を作成することを目的とし、看護教育の質保証をめざし、看護教育活動の改善・改革のために、教育プログラムの開発、教育介入研究、教育システムの開発などの研究に取り組む研究計画書の作成を目標とした。授業終了時の評価項目には7項目を設定した。受講者から、1) 研究テーマや研究デザインの設定にかなりの時間を要した、2) 授業はゼミ形式で進めたことにより、さまざまな視点からのアドバイスが得られ、研究計画書の作成に参考になった、などのコメントがあった。
4	DB9102	看護教育管理学特別研究D I	篠崎 恵美子	本科目では看護教育の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のために先進的な課題で実践的研究に取り組み、国内外で革新的なケアプログラムやケアシステムなどの開発を目指すものである。この科目では専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させるべく、研究計画書の作成し、研究倫理委員会への提出までを目指している。受講者1名は研究倫理委員会への提出をすることができ、また1名は研究計画書の提出ができたため、概ね目標を達成したと考える。受講生は主体的に学ぶことができ、高い評価を得た。
5	DB9103	看護教育管理学特別研究D I	藤原 奈佳子	自己の研究課題を達成するために適したデータ収集方法と分析方法を選定し、研究計画発表会で発表できた。さらに社会的ニーズ、研究の新規性、研究倫理を明確にし、具体的な分析方法を研究計画書を作成しているが、完成に至っていない。
6	DC2201	リプロダクティブヘルス看護学演習D	内藤 直子	博士後期課程1年次は、意欲的な自立した学生であったため、毎回、学生のレディネスが把握できたので、個々人の理解度と関心に即して授業を進めることができた。今後は、国内外の文献をタイムリーに探索したり、研究方法では質的量的実験的な混合研究方法について、討議を深めて幅広い研究に発展するように教授する。また、学会参加などで新しい知見に触れ、創造的な研究に進められる工夫を促すよう努める
7	DC9101	発達看護学特別研究D I	内藤 直子	少人数のため、毎回、学生のレディネスが把握できたので、個々人の理解度と関心に即して授業を進めることができ、自己の研究課題を探索したり、研究方法を検討することができていたと言える。質的量的実験的な混合研究方法について、国内外の研究動向や研究方法を討議したので、院生の研究計画に活用できると予測される。今後は英文購読を深めて、専門分野の国際的動向をより理解し幅広い研究に発展するように教授法を深めていく予定である。
8	DD2201	エンド・オブ・ライフケア看護学演習D	小笠原 知枝	本科目の目的は、終末期における対象者の心身ニーズの対応、家族支援を含めた終末期患者のQOL・QODDを高めるケアリングのための研究力・教育力の育成にある。具体的にはエンド・オブ・ライフケアの質管理と効果評価方法、経過時期別ニーズの変化とケアパス、介入研究とその評価方法、教育実践プログラムと有効性検証などに関する文献検討を行い、看護研究と実践の相互発展を促進する研究の進め方を理解し、自己の研究に反映させることを目標とする。授業終了時の評価項目には5項目を設定した。受講者から、1) 学生の研究テーマに関連した授業内容であり、研究推進に活用できるものであった、2) 国内外のエンド・オブ・ライフ ケアの特徴を学ぶことができたが、学生が1名であり、学生間の討議ができず残念であった、などのコメントがあった。
9	DD4201	高齢者看護学演習D	臼井 キミカ	演習の基本的な内容はシラバスに添ったが、院生の主体的な学習を促すことを意図して関心領域に対するプレゼンテーション・ディスカッションを通して進化した。履修終了時の院生各自の自己評価では個人差が認められたものの、国内外の高齢者ケアシステムの相違からわが国の特徴と課題について深く理解でき、各自の主体的な取り組みを通じてのみ得られる研究と実践の相互関係の発展に関する持論を持つことにつながったと評価できる。

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
10	DD9102	成人・高齢者看護学特別研究D I	小笠原 知枝	特別研究の目的は自立した研究者として看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。そのため本科目では、新規性と独創性のある新たな科学的知見を見出すことを目指した研究計画書を作成することを目的とし、エンド・オブ・ライフ ケア看護学領域では、エンド・オブ・ライフ ケアの質保証とケアプログラム開発研究とその検証を目標とする研究計画書の作成を目的とした。授業終了時の評価項目には7項目を設定した。受講者から、1) 学生の研究テーマや研究デザインの設定からデータ収集方法に至るプロセスはゼミ形式で進め、資料の準備と発表、確認、修正を繰り返しながら研究計画書を作成できた、2) 授業が大学入試などの都合で時間や場所に制約された、などのコメントがあった。
11	DD9103	成人・高齢者看護学特別研究D I	臼井 キミカ	院生は異なるテーマで各自の研究に取り組むため、担当教員と院生の1対1で進めるのが効率的であるとも考えたが、院生と教授の全員参加で進めることにした。院生全員が社会人であるため、日程調整等の非効率的な側面も否めなかったものの、お互いが培ってきた知見を踏まえて各自の研究に関する忌憚のない意見交換の成果は大きく、研究の新規性・独創性・社会的価値などの基本的な土台が確実に構築できたことは何物にも代えがたい。
12	DD9104	成人・高齢者看護学特別研究D I	安藤 純子	成人・高齢者看護学特別研究DIでは、新規性と独創性のある新たな科学的知見を見出すことを目指した研究計画書を作成することを目的としている。看護ケアの質保証とケアプログラム開発に基づくケアシステムなどの改善・改革を効果的にすすめられるような研究をめざし、授業を進める中で、最新の情報収集を行い、研究テーマを設定し、研究目的、研究方法などを検討した。その結果、博士論文研究計画書を作成し、発表することができた。しかし、研究計画実施にあたり課題があるため、今後も、学生の意向を尊重し、進めていきたい。
13	DE0201	在宅看護学演習D	島内 節	科目の目的はエビデンスに基づくケア内容と方法の検討から実践力を強化する。参加学生は1名で在宅演習授業の教授内容は、2点に集中して行った。1点目は利用者と家族、QOLを高めるケア、アウトカムをとらえる方法とその活用方法、2点目は文献を活用し、国内外の在宅における制度と研究の動向を知ること、かつ自己の研究と照らし合わせて洞察力を高める授業内容とした。その結果、学生は積極的な学習意欲を持ち学ぶことへの努力をしていた。さらに学生からは在宅看護の幅の広さや訪問看護サービスにおけるケアの重要性を学ぶことができたとの感想を得た。授業の改善点については、在宅療養生活を取り巻く環境とQOLを高める看護支援及びケアアウトカムについてさらなる具体的な学習支援と在宅ケアの質管理方法を具体的に考える授業内容を検討する。
14	DE2201	地域看護学演習D	三徳 和子	地域看護学の課題について研究的視点から取り組み、研究と実践の相互的発展を促す進め方についての能力を習得することが目的である。評価指標は5つで、受講者のコメントは、「文献などにより独居高齢者の増加は、全国的に増加しているが、地域差があり、都会で問題がある。また訪問看護ステーションの偏在と独居者へのかかわり不足に対して、今後のあり方が課題である、という問題意識をもつことに至った。しかし、どのように発展させていくのかについてはこれからである」としている。個別の議論深めるために、時間と場と意見交流方法の工夫をしていく。
15	DE9101	広域看護学特別研究D I	島内 節	科目の目的は、博士論文の研究計画書を作成するために研究テーマ・目的・方法・分析方法について中間発表と年度末に計画書の完成をめざすことであった。学生は3名で学生間で差がみられた。6つの到達目標は大体到達であったが研究結果の分析法がやや不十分な点がみられるので、これを強化する教育方法を検討する必要がある。 本学生の2年次においてもこの部分は重ねて指導が必要な部分である。科目の目的は、博士論文の研究計画書を作成するために研究テーマ・目的・方法・分析方法について中間発表と年度末に計画書の完成をめざすことであった。
16	DE9102	広域看護学特別研究D I	三徳 和子	看護研究と実践の相互関係の発展を促進させる実践科学として学問的発展に貢献できる研究計画の策定と研究倫理審査委員会への提出を目指すことを目的にした。評価指標は4つで、受講者のコメントからは「研究者としての自己責任の厳しさを痛感した、研究に対する自己能力の不足を自覚した、現状の客観的分析により、引き続き計画書策定に向けて努力したい」であった。研究に対する心構えとともに、研究動機を明確にすること、研究方法についての支援を進めていきたい」とあり、個別の議論深めるために、時間と場と意見交換方法の工夫をしていく。学生は3名で学生間で差がみられた。6つの到達目標は大体到達であったが研究結果の分析法がやや不十分な点がみられるので、これを強化する教育方法を検討する必要がある。